

横浜市民ギャラリー 平成 29 年度指定管理業務評価（外部評価）

	垣内委員	金子委員	川崎委員	竹森委員
I 文化事業	<p><b>【評価できる点】</b> 平成 29 年度は概ね目標を上回っており、十分な事業展開ができていると思われる。特に利用者満足度の高さ、利用者数の多さについては、スタッフのきめ細やかなフォロー、多様で多彩な事業、地域団体やボランティアの活躍をうまく取り入れることができているためであると高く評価したい。あわせて、地域への定着、関連団体等とのネットワークの広がり、さらには協賛などの支援にむすびつくなど良い循環が見られている。これにより、横浜市のトリエンナーレ等の事業への協力も充実し、音楽など他分野との連携、あざみ野などの他施設との連携の強化とあわせて相乗効果が広がっているように思われる。市全体の賑わいにも貢献できており、文化の力を地域に活かすためにも、また、文化施設の重要性を社会に認知してもらうためにも極めて重要なことであり、今後も継続してもらいたい。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 自主事業のうち、「新・今日の作家展 2017」は、過去と現在、記憶と記録の結びつきが多様に展開され、単に新進作家の紹介にとどまらない高い企画力が発揮された展示であり、「今日」性が鮮明に打ち出された点で、「ニューアート展 NEXT」から名称を変更した意義が実感できるものであった。「コレクション展 2018」は、単に横浜の歴史パネル展ではなく、過去の展覧会事業を重ねることで、一つの展覧会が将来にまた新たな意味を生む継続性・発展性が示されたほか、ヒサクニヒコ氏関連企画での間口の広がりや、写真作家の貴重なインタビュー記録など、充実した内容であった。 「横浜市こどもの美術展 2017」は、テーマ部門と作家作品展示との関連づけや、ワークショップなどのプログラムによって、出品者やその家族以外でも訪れ、楽しむことができる多彩な内容となった。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 1 発信性のある自主事業 想像力や問題意識をもった若手アーティストを発掘し、広くその活動や作品を発信することで、若手アーティストの活動の場を広げている。目標に達する来場者があったことで、作家の活動や作品に多くの市民が触れる機会も創出できているように思う。 「コレクション展 2018」を「横浜の風景の変遷」という市民の多くが関心をもつテーマで実施したことで、これまで市民ギャラリーに足を運ばなかった層にも関心をもってもらうことができたのではないかと。 「コレクション展 2018」の作品カタログがあったことは良かったと思う。これまで他の作品展を視察させていただいたときに何も資料がないこともあったので、こうした作品カタログがあると分かりやすい。 作品の一部やインタビューをアーカイブとして、ホームページで公開したことで、より多くの人に発信できている。 観賞サポーターなど市民が企画を担う取り組みは重要。 企画に若い方が関わっていたように思います。スタッフの育成も大事なことだと思いました。</p> <p>2 次世代を担う子どもの創造性教育事業 「横浜子どもの美術展 2017」の応募数が多いということはそれだけ学校にも浸透してきているのだと思うので、今後の学校と連携した取り組みにつなげることに期待したい。 ワークショップなどを同時開催することで、応募者や近隣の親子だけでなく市内から多くの親子が来場していたように思う。また期待とってもらえるような場づくりに期待したい。</p> <p>3 市民やアーティストの創造性支援 市民が展示等の場として利用するだけでなく、展覧会の配架を積極的に行ったとのこと。市民ギャラリーに行けば、横浜市内の市民のアート活動の情報が集まっていると思われるような拠点機能は大事。</p> <p>4 創造活動を介した人々の関わりの場の提供 観賞サポーターなど市民が企画を担う取り組みは重要。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 全般的に目標を上回る活発な事業活動を行っており、利用者の満足度も概ね 4 点台後半であり、利用者により支持された活動が展開されています。 市民ギャラリーとしての立ち位置ゆえに、アートを一方的に発信するだけでなく、市民や子どもたちをアートに引き込む（呼び寄せる）、というミッションも有していると考えますが、横浜をテーマとした「コレクション展 2018」や新しいジャンルに取り組んだ「大人のためのアトリエ講座」など、市民目線に立った活動には好感が持てます。 特に、「横浜市こどもの美術展 2017」は、目標を大幅に上回る作品応募があり、全員の作品が展示されたことで、市民ギャラリーとしてのプレゼンスを強く示せたのではないかと思います。 また、鑑賞サポーターの育成・活用など、市民が自発的にアートに参加する機会を提供したことも評価したいと思います。</p>

横浜市民ギャラリー 平成 29 年度指定管理業務評価（外部評価）

	垣内委員	金子委員	川崎委員	竹森委員
I 文化事業	<p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> キッズ向けの事業はキャンセルが出やすいが、ニーズが高いことから、うまくキャンセル対応をして、定員をきちんと埋め切れるような対策は必要と思われる。人的体制の制約はあるが、ぜひ検討していただきたい。また、トリエンナーレの相乗効果、特に当ギャラリーへの来場者呼び込みの拡大については、できれば根拠となる数字や実感を具体的に記載していただきたい。そのほうが説得力も増すのでは。</p>	<p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> インターン制度については、大学生の施設見学や中学生の職業体験なども実績に含まれていることから、今後の継続に向けては、制度の目的や範囲を再度確認することが望まれる。 「大人のためのアトリエ講座」については、高い参加者数と満足度が評価される一方で、「創造活動支援」「創作のための技法や技術を習得できる機会を提供」という趣旨を踏まえ、一般的な趣味講座とは異なる観点で講座内容を計画することが望まれる。</p>	<p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> 1 発信性のある自主事業 「新・今日の作家展 2017」の入場者が、美術愛好層が中心だったということか。美術愛好層以外へのアプローチも工夫できないか。 作家と入場者（市民）が直接関わることができる機会を可能な範囲で増やしてはどうか。 カメラのコレクション展は、よほどの知識がないと見ているだけではわかりにくいと思う。視察では専門の方がついて説明してくれたが、一般の来場者でも希望すれば、観賞サポーターのようなガイドが説明してくれればわかりやすいのではないか。 インターン制度を発足させたこと自体は若い人材の育成として評価できるが、内容が「施設見学」とあった。夏休み期間の集中インターン（10 日程度）や、週 1 回年間通して行う長期インターンなど、方法は工夫して、インターン生が事業内容を理解し、参加できるようにしていく必要があるのではないか。（受け入れ側の体制も整えなければならないので大変でしょうが） 「コレクション展 2018」の作品カタログがあったことは良かったと思うので、今後も続けてほしい。集客数が多い展示は有料できちんとしたものを作ってもいいと思うが、それ以外もコピー程度のもので作品の説明などをまとめたものを配布できるようにできないか。 2 次世代を担う子どもの創造性教育事業 子どもの美術展に応募が増加するのは喜ばしいことだが、子どもたちが応募する側、それを展示するのはギャラリー側となるより、いっしょになって展示空間をつくっていくことという参加体験の場としても機能させられないか。中学生ボランティアを考えているということだが、大変興味深い取り組みかと思う。</p>	<p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> 「横浜市こどもの美術展 2017」につきまして、応募作品全てを展示する、というコンセプトを継続することですが、今後応募作品が大幅に増加した場合の展示スペースもしくはスタッフの工数の問題が課題です。 自主事業につきまして、充実した内容の小冊子を作成・無料配布されておりますが、興味を持った来場者向けに冊子を少額の有料化とする一方、内容を簡素化した無料冊子を用意するなど、鑑賞ツールとしてのメリハリをつけることで、少しでも採算性の向上につながるのではないかと思います。 市民目線でアートを発信することはとても重要と思いますが、今後もギャラリーとしてのコアなコンセプトはぶれることなく、大切にしていきたいと思います。</p>
II 施設運営	<p><b>【評価できる点】</b> 立地が必ずしも良いとは言えない中、来館者数、展示室利用率も大きく目標を上回った。加えて、利用者満足度も高く、スタッフの対応を高く評価したい。空き室対策、送迎車に関する適切な情報発信など利用者サービスの向上も不断に図られており、それが目に見える形で成果となって出てきている。引き続き努力されたい。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 展示室及びアトリエの貸出について、利用者の意見を活かすなどして、利用率の向上につなげている点を評価する。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 近隣の公共施設 5 館で五館長会を発足したことは、連携を推進する上で重要なことだと思う。現在は告知等での連携が主なようだが、利用者層の違う他施設の一角での出張展示などができれば、市民ギャラリーを知らない層にもアピールできるのではないか。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 来館者数が目標を上回り、展示室、アトリエとも利用率は目標を大きく上回りました。これはきめ細かいサポートが利用者に評価されたためであり、アンケート満足度 4.7 という実績にも表れています。 実態に即した柔軟な運用へ変更するなど、様々な取り組みを行うことで、利用率の向上に取り組まれている点を高く評価します。</p>

横浜市民ギャラリー 平成 29 年度指定管理業務評価（外部評価）

	垣内委員	金子委員	川崎委員	竹森委員
II 施設運営	<p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> 指定管理者自体も指摘するように、アトリエの利用促進は課題である。目標値は上回ったとはいえ、半分以下の利用率は残念である。限られた良質な空間をできる限り有効に使うことが望まれる。</p>	<p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> アトリエについて、月ごとの利用率の差異が著しいことから、時間帯ごとの利用率など、より細かな状況把握と分析に取り組まれない。 ホームページについては、モバイル端末利用への対応も期待したい。</p>	<p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> アトリエが空いているときは、別の利用目的での利用はできないか。また一般の公共施設に比べて利用料が高いことが、利用を躊躇させている面もあるかと思う。料金を下げれば利用したいという団体が多いのか、利用者アンケートなどをとってみてはどうか。</p>	<p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> 収蔵作品のデータベースでの公開につきましては、学術的観点からも重要と考えますので、早急に取り組んで下さい。 アトリエにつきまして、利用率向上に引き続き取り組んでください。併せて、利用状況に応じて、利用者が利用しやすい柔軟な料金体系もご検討下さい。 収蔵作品について、必要な修復もしくはクリーニングが十分に行われているかという点にやや不安を抱きました。収蔵作品について、優先順位を決め、必要かつ十分な修復・クリーニングが行われるように実施計画を作成し、それに基づいた予算作成をするようにしていただきたいと思えます。</p>
III 維持管理	<p><b>【評価できる点】</b> 施設設備の長命化を視野に細やかな維持管理が行われていると思われる。年間 27 万人の利用者を迎えながら、無事故無事件であったことも高く評価される。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> 地震等災害に備えた実践的な訓練等準備は今後も引き続き行っていただきたい。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 施設・設備の状態が総合的な観点で把握・管理されており、共同事業体としての特性が発揮されている。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> 収蔵庫内の温湿度管理については、スタッフの人的コントロールに支えられている状態であるということから、改善策について、設置者とともに検討されたい。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 収蔵作品の適切な管理は手間もかかると思われるが、しっかりとされている様子。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> 収蔵作品の管理が、主に人的なコントロールに委ねられていることは指定管理者も改善が必要な点としてあげているが、人的なコントロールも必要だが、それを支える設備面での改善も検討していただきたい。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 少ない人員でしっかりと施設の維持管理をされている点。 危機管理マニュアルの作成や研修・訓練など、非常時を想定した対策を取られている点。</p> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b> 収蔵庫につきましては、収蔵作品の適切な管理を可能とすべく、市と引き続き対策を協議して下さい。</p>
IV 収支	<p><b>【評価できる点】</b> 利用料金収入が若干目標を下回っているが、経費削減による事業充実、施設の機能向上など、努力の跡が見られる。特に協賛金、助成金の獲得は高く評価したい。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 効率化等のきめ細かな取り組みで、経費削減を達成している点を評価する。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 管理費コストを押さえて、事業費を充実させている。管理費コストの削減努力は必要だが、利用者の安全や利用しやすさを損なうことのない範囲での管理費削減が望まれる。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 助成金、駐車場利用料金収入など、積極的に外部からの収益獲得に取り組んだ点 電気料金を予算額に比べて大きく削減できた点</p>

横浜市民ギャラリー 平成 29 年度指定管理業務評価（外部評価）

	垣内委員	金子委員	川崎委員	竹森委員
IV 収 支	<p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>収支バランスについては、利用料金収入を含め、引き続き努力されたい。そのためには、まだ伸びる余地のあるアトリエ利用率の改善や、ニーズの高いキッズ関連事業の柔軟な対応などが求められる。</p>	<p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>送迎車依頼費については、信頼性と利便性を保ちつつ、経費削減の可能性を探ることが望ましい。</p>	<p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>収支報告書に、横浜市への「目的外使用料」という支出があったが、目的外使用であるのならば、この会計（指定管理者としての会計）から支出すべきものなのかという疑問が生じる。説明を聞いて納得したが、収支報告書には、この会計から支出する根拠をしめせるような表現をしていただきたい。</p> <p>人事異動は指定管理者の組織として決定することであるが、人事異動によって、市民ギャラリーに従事するスタッフの経験やスキルの総体が低くなることのないようご留意いただきたい。</p>	<p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>平成 29 年度は民間 2 件からの助成金が不採択となりました。助成金 1 件当たりの金額はたとえ少額でも、幅広いスポンサーを獲得すべく、今後とも、ご尽力下さい。</p>
そ の 他	<p>データベースだが、これはメタデータであろうか。また国際的にもアーカイブ化が進む中、市全体としてこういった貴重なコレクションをどうデータ化するのかといった指針もあるであろうから、単館での対応でなく、市全体のデータベースとあわせてぜひ利用者にとって使い勝手のいいデータベースを作成してほしい。</p>		<p>送迎車が車いすにも対応している点は良いが、車いす利用者や駅から歩いてくるのが困難な方に対して、送迎車の予約受け付けなど、より配慮を講じられないか。</p> <p>桜木町駅の送迎車乗り場が分かりにくい。（バス停のような印がなにもないので）初めて乗ったときは、待っていて本当にここでいいのか不安になる。</p>	<p>特に、「Ⅲ 維持管理」に関して、西田装美株式会社と共同事業体を組んでいることによるメリットもしくは強みに関して、もう少し立ち入った説明が欲しかったところです。また、収支に関しても、西田装美株式会社への分担金が他の費目と共に「その他保全費」に含められており、当該金額の妥当性を含め、現況を把握することができませんでした。</p>

	垣内委員	金子委員	川崎委員	竹森委員
総 括	<p>全体としてバランスが取れた多様な事業展開、利用者数増加、特に展示室の利用率の高さが特筆される。また、地域への定着と、他分野、他施設、ボランティアなどとの連携が進み、相乗効果が出てきていることを高く評価したい。特にボランティアや他団体との連携が協賛という形で実を結ぶなど成果が可視化された。少ない人的体制の下、施設の機能を効率的に活かして、市民に多様なサービスを提供できていると考える。</p>	<p>これまでは関内からの移転に伴うアクセス度の低下などマイナス面の印象が先行していたが、利用者への丁寧な対応の積み重ねと施設特性を活かした事業企画によって、市民ギャラリーの新たな方向性が具体的なかたちで見えて取れた年度であった。指定期間の後半は、近隣地域や施設との連携をさらに図って、魅力あるまちづくりに寄与されることを期待したい。</p>	<p>報告書を拝見し、何度か視察させていただいた限りでは、企画内容も充実してきており、利用も増えてきているように思われた。移転後一定の期間も経て、あらためて、移転前と比べた企画内容、利用者層等の変化を教えてください。</p> <p>来場者数や実施回数目標値の到達度で A、B 評価をしているが、そうした数値的な評価以外にも、実施したことによる、アーティストへの支援効果、市民への波及効果などを検証してみることが重要だと感じる。</p>	<p>来館者数の大幅な増加、高い満足度に示されるように、きめ細かい運営や魅力的な企画が、利用者にも評価されているものと思います。また、市民、地域、他のアート関連組織やイベントとの連携など、地域におけるアートの拠点として、しっかりとその地位を固めつつあるように思います。</p> <p>今後は施設、設備の経年化も徐々に進み、維持管理費用も増加するものと思われますので、指定管理料のみに依存しない収益構造に向け引き続き努力していただくと同時に、コスト削減のための有効な施策等も継続的に実施されることを期待します。</p>

平成29年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

I 文化事業目標	評価項目	H29年度計画		実施状況		評価	
		指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価
1 発信性のある自主事業を実施します。	1 自主企画展の年1回以上の開催	□新・今日の作家展2017 実施回数	1回	1回	チェック B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「新・今日の作家展2017」は記憶・記録をテーマに現代のアートシーンの傾向をよく表した若手を中心とした4組5名の作家を紹介しました。出品作家がヨコハマトリエンナーレ2017の出品作家となったほか、美術雑誌「美術手帖」で取り上げられるなど、キュレーション力が発揮されました。関連企画も目標の2倍となる4事業実施し、美術愛好層をはじめとした方に来場いただき、入場者数は目標を上回る4,579名となり、満足度は4.5と目標を上回りました。</li> <li>「コレクション展2018」は、写真と素描により横浜の風景の変遷をたどり、さらに横浜市民ギャラリーあざみ野との連携企画としてコレクション交換展を実施したほか、当館収蔵作家の特集展示を行い、多様な切口からコレクションを紹介しました。また、鑑賞サポーターの活動を継続し、市民協働の取組を実施しました。事業内容に広がりをもたせたことで、幅広い層から好評を博し、入場者数は目標より2,400人以上を上回る5,965名となりました。</li> <li>展覧会では出品作家や所蔵作家のインタビューをアーカイブ化し、インタビューの実施数は目標を上回りました。インタビュー映像は展覧会会場だけではなくホームページでも公開しました。</li> <li>「ヨコハマトリエンナーレ2017」関連事業として実施した「B1コンサート-桑田歩-」や「新・今日の作家展2017」でのアーティストトーク企画の「クロストーク 継承のかたち」では、横浜市が主導する芸術文化事業の賑わいの寄与だけではなく、当ギャラリーへの来場者の呼び込みにも繋がり、相乗効果の高いものとなりました。「フォトヨコハマ2018」では目標の4倍の事業連携を実施したほか、民間ギャラリーや貸し館利用団体へ参加を呼びかけたことに加え、情報誌での広報など、運営面・広報面でも積極的に協力しました。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若手作家などの高い発信性のある展覧会を自主事業において今後も企画しますが、横浜市民ギャラリーに足を運んでくださる市民の皆様にも関心を持ってもらえるような工夫が必要と考えます。展示内容をわかりやすく示したフライヤーの作成や、エントランスモニターでの広報映像の放映やポスター掲示により展示情報を発信し、多くの来館者の取り込みを行います。</li> </ul>	
		□入場者数	4,500名	4,579名	B		
		□関連企画 事業数	2事業	5事業6回	A		
		□顧客満足度	4.0以上	4.5	A		
	2 収蔵作品を活用した展覧会の年1回以上の開催	□コレクション展2018 実施回数	1回	1回	B		
		□入場者数	3,500名	5,965名	A		
		□関連企画 事業数	2事業	4事業6回	A		
		□顧客満足度	4.0以上	4.6	A		
3 「今日の作家展」のWEB公開を目的としたアーカイブの実施	■「今日の作家展」の未整理の記録の整理	実施	実施	-			
	□関連作家等へのインタビュー 実施数	1名	4組5名	A			
4 収蔵作品等の積極的な公開とアーカイブの実施	□収蔵作品の作家へのインタビュー 実施数	1名	2名	A			
	■企画連絡会議の実施	実施	実施	-			
		□「現代美術」というくりでの展覧会をリレー展として開催	1事業	1事業	B		
5 横浜市民ギャラリーあざみ野との企画連携	■「コレクション交換展」の共同開催に向けた検討	実施	実施	-			
	■希望に応じて受入れ	受入数	3組23名	-			
6 インターン制度の発足	□「横浜トリエンナーレ」に寄与する事業の展開 事業数	1事業	2事業	A			
	□「フォトヨコハマ2018」との連携 事業数	1事業	4事業	A			
7 横浜市の文化事業との積極的な連携	□コレクションにおけるサポーターの活用	活用	活用	-			
	8 鑑賞サポーターの育成及び活用	活用	活用	-			

評価項目		H29年度計画			実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
2 次代を担う子どもの創造性教育事業を実施します。	9 「横浜市こどもの美術展」の実施と新たな取組	□企画展 実施回数	1回	1回	B	【計画書からの変更事項】 ・当初計画のテーマ「動物」から変更し、テーマ部門「虫」を設置しました。  ・自由参加ワークショップ「紙工作で虫をつくろう!」を設置しました。 ・「超高解像度人間大昆虫写真[life-size]展」を実施しました。	【成果】 ・「横浜市こどもの美術展2017」には目標を800点以上を上回る3,000点を超える作品応募があり、全員の作品を展示することで子どもたちの自信につなげることができました。音楽会やアーティストの展示、ワークショップ、ボランティア活動なども充実させ関連企画事業数は目標の5倍となりました。入場者数は目標を2倍以上を上回る16,650名(関連企画等を合算すると17,503名)となり、満足度も4.5と目標を上回り、にぎわいのある展覧会となりました。  ・「ハマキッズ・アートクラブ」では、子どもの年齢に応じたきめ細やかなプログラムを行い、参加者全員が自分の力で考え、作品を完成することができました。参加者数は目標を100名以上を上回り、利用者全員の平均満足度も5点満点中4.9点と高得点を獲得しました。造形や鑑賞活動を通じて子どもたちがアーティストや大人たちと触れ合うことで、他者を知り、新しい世界を広げていく機会にすることができました。  【課題】 ・「横浜市こどもの美術展2017」では会場のキャパシティに対してちょうどよい出品点数となりましたが、今後応募が大幅に増えた場合は、限られた空間で展示スペースを確保するための工夫が必要となり、また当館スタッフの人手不足について検討が必要となります。より効率的な展示方法の検討や既存展示室以外のスペースの活用を念頭に入れながら、応募作品を全て展示するというコンセプトを継続します。また、中学生以上の市民にボランティアを募り、横浜市の事業を体験しながら、横浜市民ギャラリーの一員として展覧会運営に参加していただけるよう取り組みます。  ・「ハマキッズ・アートクラブ」は応募数が増加する一方、子どもの体調不良などによる急なキャンセルが多く、当日定員割れをすることがありました。限りある予算とマンパワーの中でより多くの子どもたちに参加機会を提供することが課題です。キャンセル枠に抽選時に落選した方がが繰り上がって参加できるように、キャンセルの場合は直ぐに連絡していただく旨、当選通知に盛り込むなど、対応を検討します。	【評価できる点】 ・「横浜市こどもの美術展2017」は入場者数が目標を8,000名以上も上回ったことを高く評価します。「虫」という子どもたちに身近なテーマを設定し、テーマに関連するアーティストの作品で会場を盛り上げた点が、来場者の増進に寄与しました。関連企画は目標1回に対して5回実施し、満足度も目標を上回りました。また、「ハマキッズ・アートクラブ」の参加者数は目標を100名以上上回り、満足度は4.9と非常に高い水準になったことを評価します。参加者全員が自身の手で作品を完成できる工夫を行う等、参加者に応じたきめ細やかなプログラムが提供されたことが伺えました。子どもの創作活動の発表の場であると共に、プロによる優れた文化芸術を鑑賞する場となった「横浜市こどもの美術展2017」を開催し、文化芸術活動を体験的に学べる場である「ハマキッズ・アートクラブ」を実施したことにより、次世代育成に貢献したことを評価します。  ・横浜美術館及び横浜市民ギャラリーあざみ野との情報共有等の連携を継続して行ったことにより、相互の利用促進につながったことを評価します。  ・教育機関への支援として展覧会の活用を目的とした教員向けの研修を実施したほか、横浜市芸術文化教育プラットフォームへも積極的に協力し、小中学校でアウトリーチを実施したことで、子どもたちの表現力やコミュニケーション力等の育成に寄与したことを評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・選定時に新しい企画の取組として提案された、横浜美術館及び横浜市民ギャラリーあざみ野との連携講座の実現に向け、企画会議は実施しましたが、今後は着実な開催に向けた具体的な取組を期待します。  ・ニーズの高い「ハマキッズ・アートクラブ」のキャンセル対策の継続した検討を期待します。
		□入場者数	8,000名	16,650名	A			
		□出品数	2,300点	3,177点	A			
		□関連企画 事業数	1事業	5事業	A			
		□顧客満足度	4.0以上	4.5	A			
		■テーマ部門「動物を描こう」の設置	設置	設置	-			
		■ワークショップスペースの設置	設置	設置	-			
		□サポーターの募集、育成のための育成研修 実施回数	1回	1回	B			
		■アーティストとの交流の場の提供 アーティストの作品展示	実施	実施	-			
	10 子どもの文化芸術の体験の場の提供と新たな取組 ハマキッズ・アートクラブ	□親子対象講座 実施回数	3回	4回	B			
		□年長児対象講座 実施回数	2回	2回	B			
		□小学校低学年対象講座 実施回数	3回	3回	B			
		□小学校高学年対象講座 実施回数	2回	2回	B			
		□横浜トリエンナーレ関連講座 実施回数	1回	1回	B			
		□参加者数	200名	309名	A			
		□顧客満足度	4.0以上	4.9	A			
11 横浜市の文化事業との積極的な連携	□「横浜トリエンナーレ」に寄与する事業の展開 事業数	1事業	1事業	B				
12 横浜美術館、横浜市民ギャラリーあざみ野の子ども事業との連携	□3館で事業連携し、講座内容や対象年齢を考慮した講座の開催のための企画会議 実施回数	1回	1回	B				
	■3館での相互広報の体制作り 応募の落選者へ他館の講座を知らせる仕組みづくりを行う	実施	実施	-				
13 親子講座の開催	□親子で造形を楽しむ講座を開催 実施回数	3回	4回	B				
14 教育機関等への支援の実施と新たな取組	□アートティーチャーズ・プロジェクトの取組みを共有し、<美術の教師のための鑑賞レクチャー>や<教師のためのワークショップ>等の造形・鑑賞の指導 実施回数	1回	1回	B				
	■横浜市芸術文化教育プラットフォームへの全面協力	実施	実施	-				
15 横浜市芸術文化教育プラットフォーム『学校プログラム』への協力	■横浜市芸術文化教育プラットフォームへの全面協力	実施	実施	-				
16 鑑賞教室等のアウトリーチ等の実施	□小学生、中学生、高校生を対象としたアーティストトークや鑑賞教室 事業数	1事業	1事業	B				

評価項目	H29年度計画			実施状況		評価	
	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
3 市民やアーティストの創造活動支援を実施します。	17 利用団体等が行う活動の支援の充実 (1)利用団体への丁寧な相談・助言  (2)利用団体の展覧会についての積極的な広報	■事前打ち合わせの実施	実施	実施	-	・展覧会開催1か月前に事前打ち合わせを実施したほか、随時相談に応じ、展覧会終了までサポートしました。 ・利用団体の展覧会情報を情報誌やホームページ上に掲載するとともに、LOD化されているヨコハマ・アートナビへ情報提供しました。 ・展覧会会場の様子を撮影し、会期初日にホームページで公開しました。	<b>【成果】</b> ・「大人のためのアトリエ講座」では、「和菓子作り」や「手製本製作」等の前年度までの人気講座を継続して実施するとともに、「アニメーションのレクチャー」や「写真を撮ること」等の新しいジャンルの教養講座を織り交ぜ、多岐にわたったジャンルで開講したことにより、リピーターに加えて新規の受講者を迎えました。特に、聞いて学ぶ講座の「アニメーション美術監督の仕事」と「写真を撮ること」ではそれぞれ定員の倍以上となる応募（前者109名、後者123名）があり、遠方からの来場者もみられました。なるべく多くの方に参加していただけるよう、できる限り当選枠を広げた結果、目標参加者数を150名以上上回り、満足度も目標を上回る4.7となり、好評を得ました。  ・利用団体の展覧会情報を横浜市民ギャラリーの情報誌やホームページに掲載、LOD化されているヨコハマ・アートナビへ提供したほか、展覧会会場の様子を撮影し、会期初日にホームページで公開しました。twitterやFacebookでも画像やハッシュタグと共に紹介し、積極的に広報支援しました。  ・市民からの展覧会のDM配架依頼を積極的に受け入れ、チラシと共に、整理・工夫して配架し、情報コーナーの充実を図りました。  <b>【課題】</b> ・「大人のためのアトリエ講座」の、つくって学ぶ講座では、利用者から「デッサンやクロッキーを学ぶ講座等の、回数を重ねる講座への参加が困難である」という声もあることから、人気のあるクラフトワーク等の1日限りの講座の割合を増やすことを検討します。  ・広報誌の発行では、広告主の安定的な確保が課題です。29年度、30年度分と担当者の営業努力が実り、広告枠は継続して全て埋まりました。今後とも広告主との密なコミュニケーションや魅力的な内容の広報物を発行することで、安定した広告収入獲得に取組みます。
		■<ヨコハマ・アートナビ><アートヨコハマ><横浜画廊散歩>での事前広報	実施	実施	-		
		■<ヨコハマ・アートナビ>への情報提供	実施	実施	-		
		□<アートヨコハマ> 発行回数	年3回	年3回	B		
		□<横浜画廊散歩> 発行回数	月1回	月1回	B		
		■ホームページでの展覧会の紹介 会期初日にホームページ上で公開	実施	実施	-		
	18 文化芸術の体験の場としての講座等の実施 (1)文化芸術の体験の場としての講座等の実施 大人のためのアトリエ講座	□つくって学ぶ 講座数	7講座	7講座	B		
		□きいて学ぶ 講座数	3講座	3講座	B		
		□参加者数	200名	353名	A		
		□顧客満足度	4.0以上	4.7	A		
	(2)横浜市の文化芸術事業との関連講座の開催	□「横浜トリエンナーレ」に寄与する事業の展開 事業数	1事業	1事業	B		
	19 美術情報の提供及び広報の充実 (1)横浜美術館との情報連携の強化  (2)ホームページ、SNS等の活用による充実タイムリーな情報発信	■広報連携の実施	実施	実施	-		
		■横浜市の文化政策上重要な事業について、映像情報等を交えたコーナーの設置と、広報する会期に合わせての紹介	実施	実施	-		
		■空室情報の更新 実施状況	随時実施	随時実施	-		
	20 (3)広報誌の定期的な発行	■会期初日での展覧会情報の紹介	実施	実施	-		
		□<アートヨコハマ>発行回数	年3回	年3回	B		
		□<ヨコハマ・ギャラリーマップ> 発行回数	年1回	年1回	B		
20 市民参画等の協働の推進による美術振興の担い手育成 (1)文化芸術の情報の場としての強化及び集客キャンペーンの実施	□<横浜画廊散歩> 発行回数	月1回	月1回	B			
	■文化芸術の情報の場としての強化 情報コーナーの充実	実施	実施	-			
	■キャッチコピーによるキャンペーンの継続	実施	実施	-			
20 (2)横浜市民ギャラリーあざみ野との共同講座の実施	■「美術品の扱い方」、「展覧会のつくり方」、「ワークショップのハンドリング」等の専門的な知識を得られる講座の実施のための検討	実施	実施	-			
	□ボランティアの活用 回数	2回	2回	B			

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
4 創造活動を介した人々の関わり合いの場を提供します。	関連施設、民間ギャラリー、利用団体、ボランティア、アーティスト、学校教育間での相互交流の実施	■関連施設とのネットワーク インターネット情報、印刷物の相互配布	通年	通年	B	・関連施設とネットワークを形成しました。近隣公共施設からなる五館長会が発足しました。 ・民間ギャラリーとのネットワークの活用として、展覧会情報をホームページに掲載しました。 ・利用団体との交流として、貸館利用打ち合わせを通年で実施しました。 ・「横浜市こどもの美術館展2017」ではワークショップのサポートとして、「コレクション展2018」では鑑賞サポーターとして、市民ボランティアが参画できる事業を2事業実施しました。	【成果】 ・市内の美術関係者と連携を図りながら各種広報誌を発行しました。特に「画廊散歩」「ヨコハマギャラリーマップ」の発刊は、横浜市内の美術振興の一翼を担いました。連携を継続したことにより、関連施設や民間ギャラリーとのネットワークもより強くなり、閉廊情報などが速やかに集まったり、広告掲出依頼の件数の増加に繋がりました。また、近隣公共施設5館で5館長会を発足し、情報交換や課題の共有を行いました。各館との広報周知などの協力だけではなく、一体となった施設案内表示の実現への検討等、今後地域の文化振興を5館で牽引していくための情報共有を行いました。その一環として、1月には青少年センターで行われた「子どもフェスティバル」に参加し、子ども達を対象とした「動物お面作り」のワークショップを行い、地域の賑わいに寄与しました。  【課題】 ・「画廊散歩」及び「ヨコハマギャラリーマップ」の発行を通じて蓄積された情報を、より広範囲にかつ効果的に市民へ届ける方法を培ってきていますが、情報誌の配架先について、より効果的な場所及び部数の検討が必要です。	【評価できる点】 ・目標を着実に達成することで、関連施設、民間ギャラリー、利用団体、ボランティア、アーティスト、学校等との多面でのネットワークを形成し、継続した関係性の構築を行ったことを評価します。また、近隣公共施設で発足した、5館長会に参加し、他館との情報共有や事業協力等を行ったことを評価します。  ・「フォトヨコハマ2018」への協力として、民間画廊に参加を呼びかけ、各種広報誌でも写真展を積極的に取り上げたこと等により、横浜市の文化政策を積極的に推進したことを評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・今後は、構築された各方面とのネットワークに基づき、創作活動を介した人々の関わり合いの場の中継役として、横浜市民ギャラリーがその役割を担うことを期待します。
		□民間ギャラリーとのネットワーク ＜横浜画廊散歩＞ 発行回数	月1回	月1回	B			
		□民間ギャラリーとのネットワーク ＜ヨコハマギャラリーマップ＞ 発行回数	年1回	年1回	B			
		■民間ギャラリーとのネットワーク 展覧会のホームページへの掲載	掲載	掲載	-			
		■利用団体との交流 貸館利用打ち合わせの実施	通年	通年	-			
		□ボランティアの活用	2回	2回	B			
		□アーティストとのネットワーク アトリエ講座 実施事業数	10事業	10事業	B			
		□アーティストとのネットワーク 展覧会 実施回数	3回	3回	B			
		□学校教育とのネットワーク アートティーチャーズ・プロジェクト 実施回数	1回	1回	B			
□学校教育とのネットワーク アウトリーチ 実施回数	1回	1回	B					

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 創造活動の発表の場を提供します。	(1)多くの市民に利用してもらえるような公平・公正で、透明性の高い施設貸出	□全展示室利用団体の抽選会 実施回数	年1回	年1回	B	・空き室情報を随時更新しました。 ・29年度は、当日の利用申し込みはなかつたので、対応はありませんでした。 ・利用団体からのアンケートを職員内で情報共有しました。 ・利用者の状況をふまえ、きめ細やかな運営サポートを行い、安心して展覧会が開催できるよう支援しました。 ・情報誌＜アートヨコハマ＞へ開催情報を掲載しました。 ・全ての展覧会初日に会場風景を撮影し、ホームページで紹介したほか、展覧会情報をFacebook、twitterに画像やハッシュタグ付で掲載し、利用者の展覧会に対する広報支援を行いました。 ・利用者の状況により、脚立に乗る作業を手伝ったほか、作品の展示に関する相談に乗るなど、利用者ごとに柔軟に対応しました。 ・近隣コミュニティと情報交換を密に行ったほか、近隣公共施設と五館長会を発足しました。また、地域の貼紙ラリーへ協力したほか、野毛山動物園との協力体制を築くなどを行いました。 ・横浜市民ギャラリーあざみ野との連携による情報提供として、相互に情報誌へ掲載したほか、チラシ配架、ポスター掲示、SNS発信、エントランスモニターでの告知映像放映等の広報連携を実施しました。 ・ホームページ上で、横浜市民ギャラリーあざみ野と相互間で空き室情報を見られるように実装しました。	【成果】 ・利用者の経験等を鑑みながら、きめ細やかな運営サポートを行い、安心して展覧会が開催できるように支援し、目標の4.0を上回る4.7という高い満足度をいただきました。利用団体のアンケートの回収率も96%となり、目標を16%上回りました。立地は悪いがスタッフのサポートが良いので次回も利用したいとの声を多くいただきました。  ・利用団体への広報支援として、従来の取り組みに加えて、利用団体の全ての展覧会の初日に会場風景を撮影し、ホームページだけではなく、Facebook、twitterにも掲載しました。その際に、ハッシュタグを活用するなどして拡散をねらい、よりいっそうの広報支援を行いました。  ・伊勢山皇大神宮・町内会でのチラシ配架や掲示に加え、地域のほりがみラリーに協力し、エリアを通じて施設周知を図りました。近隣の公共施設5館で五館長会を発足し、さらに連携を深めたほか、野毛山動物園とも協力体制を築くことができました。  【課題】 ・貸館利用者の展覧会の広報支援を多面的に行い、SNSでハッシュタグ等も活用しましたが、利用団体によって展覧会の集客数に差があり、誘客のために、全ての展覧会の会場風景や開催情報をいち早くホームページに掲載するなど、引き続き広報面でのサポートを行う等の工夫を検討します。	【評価できる点】 ・展示室の貸館利用の着実な運営が行われたことにより、利用者に公平・公正かつ安定した利用機会を提供したことを評価します。貸館利用団体からのアンケートは96%の回収率となり、アンケート満足度は4.7と目標を上回りました。これは、利用団体へのサポートが行き届いた結果の一つです。  ・近隣施設との関係性を継続し、広報面等で協力を図ったことを評価します。施設が位置するエリアでの関係性を構築し、周辺施設と連携した周知活動の継続により、施設の認知度向上に取り組んだことを評価します。  ・昨年度未達成だった横浜市民ギャラリーあざみ野との空き室情報の共有の取組を達成し、展示室の空き室案内のホームページへのリンクを相互のホームページに掲載したことで、利用者サービスの向上が図られたことを評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・利用者の広報支援のツールとしてSNS等を活用しました。今後はさらなる積極的な活用に加え、見る人の興味を引くような効果的な発信を期待します。  ・周辺施設等と構築した協力体制を今後も活用し、施設周知のさらなる強化や地域活性化の促進等への取組を期待します。
		□1～5室利用団体の抽選会 実施回数	月1回	月1回	B			
		■抽選会後の空き室 先着順に受付	実施	実施	-			
		■当日の利用申し込み等の緊急時の、安全を確認した上での対応	実施	該当なし	-			
		■利用団体からのアンケートを運営に活かすための職員内での情報共有	実施	実施	-			
		□利用団体からのアンケート 回収率	80%以上	96%	A			
		□施設スタッフ全員での定期ミーティング開催回数	月1回	月1回	B			
		■展覧会開催・終了までの利用打ち合わせ・展示作業及び展覧会会期中の運営サポートや広報面での助言協力	実施	実施	-			
		□アンケート満足度	4.0以上	4.7	A			
		■＜アートヨコハマ＞への開催情報の掲載	実施	実施	-			
		■会場風景のホームページでの紹介、展覧会情報のFacebook・Twitterへの掲載	実施	実施	-			
		■利用者ごとの柔軟な対応	実施	実施	-			
		■近隣・コミュニティとのリレーションシップによりエリアを通じた施設周知を図るための近隣・コミュニティとの連絡会の開催	開催	開催	-			
■広報連携	実施	実施	-					
■空き室情報の共有	実施	実施	-					

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
2 適切な施設情報発信等による認知度向上への取組強化	■施設情報の適切な発信による施設の認知度アップへの取組	■施設情報の適切な発信による施設の認知度アップへの取組	実施	実施	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページやSNSで展覧会情報、自主事業情報、空き室状況、送迎車情報を発信し、施設の認知度アップに取り組みました。施設利用者が自ら発信できるよう、来場者向けWi-Fiの整備を行いました。</li> <li>・展示室・アトリエのバーチャルツアーをホームページに掲載したほか、PRタイムズなどのウェブメディアへの施設情報提供、「画廊散歩」の空きスペースでの施設情報の掲載、利用者への文書の送付状に施設利用案内の一文を追記するなど、周知に努めました。</li> <li>・全展覧会を画像やハッシュタグ付きでFacebook、twitterで紹介しました。</li> <li>・利用の手引きの配布を継続し、アトリエの利用に特化したチラシを挟み込み、利用団体へ積極的に配布しました。</li> </ul>	【成果】 ・利用促進のアイデアとして、これまで積み重ねてきた運営経験から利用状況を鑑み、利用日より半年を切った展示室の空き室は、10名未満の団体や個人でも利用できるように業務の基準を変更することを横浜市に提案して実現しました。さらに、全展示室利用の枠を拡大する運用変更を実施することで、従来のお客様を大切にしながらも、より多くのお客様が利用しやすい環境を整えました。そのほか、館内のバーチャルツアーをホームページに掲載したり、貸し館案内に特化したチラシ作成や広報誌「画廊散歩」の空きスペースや送付文に利用の案内を追記するなど、地道な取り組みも行い、新規の利用につながりました。	【評価できる点】 ・指定管理者としてのこれまでの運営実績をふまえ、展示室の貸館利用について、実態に即したより柔軟な形への運用変更を実現することで、利用促進を図り、新規の利用につながったことを評価します。また、運用変更により利用機会が広がり、創造活動の場としての施設の提供という施設の役割を果たしたことを評価します。  ・昨年度は目標を下回っていた来館者数が、今年度は目標を16,000人以上上回る266,904人の来館者数となったことを高く評価します。展示室の空室の積極的な営業活動が来館者数増加の一助になりました。また、利用率は展示室が98%、アトリエが44%とそれぞれ目標を10%以上上回る実績となったことを評価します。
		■ホームページでの施設情報の周知	実施	実施	-			
		■全展覧会のFacebook、Twitterでの紹介	全展覧会	全展覧会	-			
		■利用案内による施設情報周知	実施	実施	-			
	2 利用促進及び利用者サービスの向上及びアイデアノウハウの提案をします。	3 空き室の有効利用等の利用促進のための取組の拡充	■積極的な施設貸出の営業	実施	実施	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の申込がない団体には積極的な営業を行いました。会期が迫った空き室については利用案内のチラシを作成し、美術系大学に送付したほか、館内に配架しました。また、利用日より半年を切った空き室は、10名未満の団体や個人も利用できる運用の変更を実現し、さらに全展示室利用の当選枠を拡大する運用変更も実施することで、従来のお客様を大切にしながらも、より多くのお客様が利用しやすい環境を整えました。</li> <li>・ホームページで空き室情報を随時アップし、最新の情報を提供しました。</li> <li>・これまでの施設運営で蓄積した美術関係者・団体とのネットワークを利用し、利用促進のための営業を行い、2件の利用に繋がりました。</li> <li>・抽選に外れた利用者に対しても、別日程での利用を提案するなど、施設の利用を促進するよう努めました。</li> <li>・利用日より6か月を切った展示室空室を若手アーティストに対して50%減免で提供し、若手支援の機会としました。当該2つの展覧会はフォトヨコハマのパートナーイベントにもエントリーしました。</li> <li>・横浜近郊の美術大学の学生向けに展示室の空き室利用に関するチラシを作成し、アトリエに特化したチラシと共に送付しました。</li> <li>・アトリエの利用に特化したチラシを作成し、「利用の手引き」に挟み込んででもれなく配布しました。アトリエ利用促進の告知動画を引き続き館内エントランスモニターで流し、エントランスの休憩スペースのテーブルに広告を設置したほか、画廊散歩の空きスペースや送付文に一文追記するなど、宣伝に努めました。展示室利用の団体に積極的にアトリエでの勉強会利用をお勧めして新たな利用を獲得しました。</li> <li>・会期(利用日)が迫った空き室のチラシを作成して美術系大学に送付し、アトリエの利用に特化したチラシと共に送付しました。</li> <li>【計画書からの変更事項】 ・学生ではありませんが、若手芸術家の支援及びジャンルを超えたアーティストの創造活動支援として、若手ダンサーの動きを若手アーティストが美術の視点から捉えるという試みをアトリエで行い、twitterで発信しました。ダンサーから3人の美術家に声をかけ実現。その様子はtwitterにて発信されました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アトリエの空き室を活用して若手アーティスト支援「第1回〈呼吸と観察〉」を行うとともに、横浜市の文化事業への寄与としてフォトヨコハマのパートナーイベントに登録し、「薄膜と空白」や「漂白する詩性」の事業を行ったほか、ヨコハマトリエンナーレ2017にも応援プログラムという形で協力しました。</li> <li>・「新・今日の作家展2017」期間中に横浜商科大学・野毛街づくり協会主催「野毛まちなかキャンパス」で学生と社会人向けに1講座を担当し、新進作家の作品を紹介した上で施設の取組を地域の人達に周知したほか、神奈川県立青少年センターの「子どもフェスティバル」に子ども向けワークショップコーナーで参加し、施設周知と地域活性化に貢献しました。</li> <li>・丁寧な運営サービスや貸館の利用促進がリピーターを増やし、利用率が展示室は98%、アトリエは44%と目標を上回りました。快適な施設環境を保持したことが、目標を上回る266,904人の来館者数に繋がったと考えています。</li> <li>・送迎車について、展覧会に即した確実な運営を行い、ポケット時刻表の発行やホームページ上での詳細な説明の掲載、運行スケジュールの改訂などの取組により、さらなる周知に努め、利用者の増加につながりました。今年度の年間利用者数は36,847人となり、昨年度と比較して7,531人の増加となりました。</li> </ul>
			■ホームページでの空き室情報の公開実施状況	随時	随時	-		
			■美術関係者・団体とのネットワーク拡大による個別に営業をかけられる体制の構築	実施	実施	-		
			■抽選に外れた全利用者への代替案の提案	実施	実施	-		
			■空室の直前割引 利用日より6か月を切った展示室空き室の50%減免での営業	実施	実施 (実績2件)	-		
			■空室の個別の営業活動 横浜近郊の美術系大学への利用案内	実施	実施	-		
■アトリエに特化した広報物の作成 過去利用団体への利用案内			実施	実施	-			
■美術関連の学校、学部への周知・営業活動			実施	実施	-			
■学生の芸術活動の育成 展覧会主旨等を精査の上、共催事業として100%減免			実施	実施 (実績1事業)	-			
■ジャンルを超えたアーティストの創造活動支援			実施	実施 (実績1事業)	-			
4 利用率の向上と目標指標の達成 (平成32年度目標) 展示室:90% アトリエ:35%	□来館者数	25万人	266,904人	B	【課題】 ・利用促進について地道に取り組み、新規利用にもつながっていますが、アトリエの利用促進が課題です。アトリエ利用促進の動画の館内での放映、アトリエ利用に関する単体のチラシ作成と、その積極的な配布を行います。利用者との打ち合わせ時に、アトリエ利用を勧める等の営業活動を引き続き実施するほか、自主事業での更なる有効活用を検討します。	【改善が必要と考えられる点】 ・アトリエの44%の利用率は、目標を達成しているものの、活用については引き続き積極的な取組が望まれます。今後も継続した営業活動の実施等の貸館利用増加に向けた取組を行うと共に、自主事業でのアトリエ活用の検討等を期待します。		
	□利用率 展示室	86%	98%	A				
	□利用率 アトリエ	31%	44%	A				

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価			
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価		
2 利用促進及び利用者サービスの向上及びアイデアノウハウの提案をします。	5 要望・苦情への適切な対応とその共有の実施	■職員ミーティングでのお客様への対応の確認 実施状況	随時	随時	-	・お客様対応の確認について日常的に議題にあげ、常に高いサービス実現のために職員一同取り組みました。 ・お客様へのアンケートを随時実施し、全職員に回覧、意見交換しました。 ・苦情・要望については直ちに職員間で共有し、意見交換の上、対応等を決定して速やかに対応するとともに再発防止に取り組みました。 ・横浜市との情報共有を随時行いました。 ・展示室の貸出基準の変更などの改善事例をホームページで公開しました。	(評価は前ページに記載)	(評価は前ページに記載)	
		■お客様へのアンケートの実施と共有 実施状況	随時	随時	-				
		■苦情・要望の分析と共有 実施状況	随時	随時	-				
		■速やかな対応と再発防止のための情報共有 実施状況	随時	随時	-				
		■横浜市との情報共有 実施状況	随時	随時	-				
		■改善事例のホームページでの公開 実施状況	随時	随時	-				
	6 市民の芸術活動の深化のための取組の実施	■市民が交流し、情報交換や知識収集のできる環境の整備 閲覧スペースの設置 実施状況	随時	随時	-	・エントランスに机・椅子・チラシラック等を設置し、各地の展覧会情報を見ることのできるスペースとして随時設置しました。チラシラックは常に整理し、開催中の展覧会の内容に合わせて配架ジャンルやレイアウトを工夫しました。			
		7 宮崎町親和会(町内会)や伊勢山皇大神宮との協力体制構築	■町の美化や町内行事の参加だけでなく、共に施設のPR等を行う	実施	実施	-			・町の美化行事への参加だけでなく、町内会の掲示板にてチラシを掲示していただくなど、施設のPR等を実施しました。 ・伊勢山皇大神宮に当館のチラシラック設置とポスター掲示について随時協力をいただきました。
			■宮崎親和会での事業周知 実施状況	随時	随時	-			
			■伊勢山皇大神宮の参拝客へのアピール 実施状況	随時	随時	-			
	8 送迎車の最適な運用の実施	□伊勢山皇大神宮とのエリア周知活動の取組 事業回数	1事業	1事業	B				
		■桜木町駅と横浜市民ギャラリー間で(車椅子利用等にも配慮した)無料の送迎車の走行	実施	実施	-	・桜木町駅と横浜市民ギャラリー間で(車椅子利用等にも配慮した)無料の送迎車の走行を行いました。 ・展覧会に即して着実に運行しました。 ・館内、ホームページでの周知を行いました。 ・運行データを収集しました。			
■展覧会に即した着実な運行		実施	実施	-					
■館内、ホームページでの周知		実施	実施	-					
■運行データの収集	実施	実施	-						
3 市民ギャラリー所蔵作品の適切な収蔵、保管、調査、研究、発表、活用、展示をします。	9 収蔵作品の適切な収蔵、保管、調査、研究、発表、活用、展示の実施	■作品の定期的な点検	実施	実施	-	【成果】 ・収蔵作品の点検・整理を5日にわたって行いました。また収蔵作品の修復・クリーニングを11件行うとともに、データベースの更新を随時実施しました。また、作品画像データ未撮影のもの54点を撮影し、収蔵作品の適切な管理に努めました。I P M (総合的有害生物管理)を通じて館全体の環境維持と改善に努めました。  【課題】 ・今後も引き続き、収蔵作品の適切な管理、データベースの継続的な更新と最適化が必要です。データベースは適切な公開方法の検討が課題です。今後はホームページ上での公開に向けて取組めます。	【評価できる点】 ・収蔵作品の定期的な点検や作品データの更新等を、目標に即して着実にやったことを評価します。また、収蔵作品の修復及びクリーニング等を実施したほか、作品保全のための綿密な収蔵庫の環境管理を継続して行いました。さらにI P M (総合的有害生物管理)業務を適切に実施し、収蔵庫を含めた館内全体の環境維持に努めたことを評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・収蔵作品の適切な管理やデータベースの更新等の継続的な実施が今後も必要です。また、現在も一部の収蔵作品は広報誌のデータ版等をホームページ上で公開していますが、公表用の収蔵作品のデータベースはないため、貴重な収蔵作品の活用と公開のためのデータベースの作成の検討を期待します。		
		■作品データの更新	実施	実施	-				
		□コレクション展 実施回数	1回	1回	B				
		□ホームページでの収蔵作品の紹介 紹介点数	12点	12点	B				
	10 資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴についてのデータベースの継続的な充実及び台帳の継続的な管理と収蔵作品の公開の実施	■資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴についてのデータベースを継続的な更新	実施	実施	-			・資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴についてデータベースを継続的に更新しました。	
		□コレクション展 実施回数	1回	1回	B				
		□ホームページでの収蔵作品の紹介 紹介点数	12点	12点	B				
		■資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴についてのデータベースを継続的な更新	実施	実施	-				
		□コレクション展 実施回数	1回	1回	B				
		□ホームページでの収蔵作品の紹介 紹介点数	12点	12点	B				

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
4 運営組織の構築及び組織的な運営をします。	11 適切な運営組織体制と人材の配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>■人材配置 館長:1名、事業責任者:1名、運営管理責任者:1名、学芸・事業担当者:3名、施設運営担当者:4名、施設管理責任者:1名、施設管理副責任者:1名、警備チーフ:1名、常勤アルバイト:2名、短期アルバイト:3名</li> </ul>	配置	配置	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>■館長:1名、事業責任者:1名、運営管理責任者:1名、学芸・事業担当者:3名、施設運営担当者:4名、施設管理責任者:1名、施設管理副責任者:1名、警備チーフ:1名、常勤アルバイト:2名、短期アルバイト:4名に増</li> </ul>	<b>【成果】</b> ・事業・管理面とも適切な人材配置ができ、確実な施設運営ができました。各部署でのミーティングや全体会議で、課題や取組について議論することで情報共有するほか、外部研修の内容を共有し、全スタッフの施設運営に対するスキルアップができました。  <b>【課題】</b> ・人事異動や有期雇用職員の期限に伴う人材の確保が課題です。平素よりスタッフ間でのお客様対応等の情報共有や業務のローテーションで個々の経験値を高めることにより、スタッフのスキルの平準化を図り、常時高いレベルの利用者サービスを提供できる施設運営の保持に向け取り組みます。	<b>【評価できる点】</b> ・適切な人材の配置及び効果的な勤務体制の実行により、安定した施設運営を行ったことを評価します。  <b>【改善が必要と考えられる点】</b> ・特筆すべき事項なし。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>■勤務体制 ローテーション体制 主催事業や貸館内容に応じ、勤務体制を調整し、柔軟に対応する。 事務室スタッフ 原則常時5名以上 設備管理スタッフ 開館時:設備1名、警備2名、清掃1名 4名以上 閉館時:警備1名</li> </ul>	実施	実施	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>■勤務体制 ローテーション体制 主催事業や貸館内容に応じ、勤務体制を調整し、柔軟に対応する。 事務室スタッフ 原則常時5名以上 設備管理スタッフ 開館時:設備1名、警備2名、清掃1名 4名以上 閉館時:警備1名</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>□定例会の実施 実施回数</li> </ul>	月1回	月1回	B				
5 本市の重要施策を踏まえ取り組みます。	13 個人情報保護についての取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>□研修 実施回数</li> </ul>	年2回	年2回	B			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>■個人情報保護は規定及びマニュアル等に基づき適切に取り扱う</li> </ul>	実施	実施	-	<b>【成果】</b> ・研修やミーティングを通じてコンプライアンスの取組や、危機管理についての知識や意識を共有し、職員全員で取り組むことができました。  <b>【課題】</b> ・今年度はコンプライアンス事故等ありませんでしたが、気を緩めることなくコンプライアンスや危機管理に継続的に取り組みます。指定管理者事務局本部では、毎月1回コンプライアンス委員会を開き、コンプライアンスに関する具体の事例について検討されました。今後も継続してその検討内容を全スタッフに共有することで、日常の業務の危機管理に備えます。	<b>【評価できる点】</b> ・個人情報の適切な取り扱いや、研修等による人権尊重についての取組を目標通り実施しました。また、定期的な空気環境測定等の施設環境の良好な維持管理に関する取組等を目標通りに実施し、業務を適切に遂行したことを評価します。  <b>【改善が必要と考えられる点】</b> ・特筆すべき事項なし。	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>■具体的な業務についてルール化し、研修や定期的なミーティングによりスタッフの個人情報取扱いに対する意識を向上</li> </ul>	実施	実施	-			
<ul style="list-style-type: none"> <li>■メールやFAX、郵便物の送付時の個人情報漏えいの防止</li> <li>■個人情報の適切な管理の徹底</li> </ul>		実施	実施	-				
14 情報公開についての取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>■規定に基づく適切な対応</li> <li>■事業計画書及び事業報告書の財団ホームページでの公開</li> </ul>	実施	実施	-				
15 人権尊重についての取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>■全ての人に開かれた施設として人権に配慮した運営や接遇の実施</li> <li>■横浜市主催の人権講習への職員の参加し、職場内の研修での人権尊重の意識を高める取組の実施</li> </ul>	実施	実施	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権に配慮した運営や接遇を実施しました。</li> <li>・接遇研修、人権研修へ参加しました。</li> </ul>			
	□研修 回数	1回	1回	B				
	16 環境への配慮に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>■環境への負荷の低減を意識した省エネルギー化、省資源化</li> <li>■「市役所ごみゼロ」「横浜市脱温暖化行動方針」「横浜3R(スリム)プラン」に基づく施設管理</li> </ul>	実施	実施		-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こまめな消灯、適切な空調の温度設定等を実施しました。</li> <li>・ごみの分別を実施し、紙の再利用を上げる等行いました。</li> </ul>	
□施設内での空気環境測定 実施回数	6回	6回	B					
17 市内中小企業優先発注についての取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>■物品購入・委託等の、特別な専門性が必要等の理由がない場合を除く、横浜市の「物品・委託有資格者名簿」に登録された企業への発注</li> </ul>	実施	実施	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として横浜市の「物品・委託有資格者名簿」登録の市内中小企業への優先発注を実施しました。複数の振込口座を持つ相手先への支払いは、市内に本支店を持つ口座を優先して支払いました。</li> </ul>			

平成29年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価		
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 施設、設備の維持保全及び管理をします。	PDCAサイクルに基づく、計画的で高品質な施設管理業務の実施	■施設・設備について高品質で効率的な定期点検及び日常点検の実施	実施	実施	-	・経験豊富な専門職員による日常点検の実施 ・日常の受変電設備や空調機器、建物の点検結果や温湿度の測定値などのデータ共有・蓄積を継続したほか、連絡体制を整え、必要に応じて市へ速やかな報告を実施しました。  ・施設の状況を常に清潔に保ちました。  ・通年で日常点検を記録し、共有しました。 ・備品を適切かつ良好な状態で管理しました。 ・廃棄物の排出量を把握し、減量や分別・リサイクルへ努めました。  ・データを蓄積しながら日常的に温湿度器に注視し、適切な管理を実施しました。 ・定期的に清掃しました。  ・施設管理に関する情報共有や会議で取り上げるなど、意識向上に努めました。 ・施設内での情報共有、モニタリングや報告書等で横浜市との情報共有をしました。 ・修繕履歴の年度ごとのデータ化をしました。  ・豊富な経験を有する専門職員を中心に突発的な修繕も速やかに対応しました。  ・ガイドラインだけではなくインターネットや他施設の情報など、多角的な知見を得て業務に対応しました。  ・人的警備と機械警備で切れ目なく警備しました。 ・業務の基準に基づき入退出の管理をしました。 ・定められた関連法規を遵守しました。 ・警備計画書および巡回警備計画書作成とそれに基づく警備業務を実施しました。 ・警備スタッフによる警備及び機械警備の業務日誌の作成と共有を実施しました。 ・近隣の防犯や道路混雑への対処など周辺道路へも防犯対策を実施しました。 ・救急セット、AEDを完備しました。 ・AEDは毎日目視によるセルフメンテナンスチェックの結果確認をしました。  ・施設内巡回による衛生管理を徹底しました。 ・予防のための掲示を実施しました。 ・消毒剤を設置しました。 ・鳥インフルエンザの発生はありませんでしたが、以上時に備えて留意しました。 ・汚物の処理キットを備え、処理時の手袋・マスクの装着を徹底しました。	<b>【成果】</b> ・施設、設備の維持保全については、日常的に点検を実施し、不具合発生時にはきめ細やかな対応を行ったことで、設備トラブルもなく、安全・安心で快適な施設の維持・保全を行いました。利用者アンケートでの快適評価も4.5と、目標の4.0を上回りました。また、展示室の壁面は自前でリタッチを実施し、経費節減をしながら展示壁をより良く保つように努めました。  <b>【課題】</b> ・収納作品の適切な管理のため、施設管理スタッフが施設内の状況を鑑みながら細目に空調機器をコントロールするなどの収納庫の温湿度管理と、専門家の助言や指導を受けたIPM(総合的有害生物管理)の継続的な実施が今後も必要です。特に収納庫の温湿度管理については人的コントロールを行う必要があります。  ・改修前からの建物の不具合が課題です。不具合発生時は迅速な共有及び処置を行う体制を取っており、横浜市との情報共有も密にしながら、今後も施設の長寿命化を図ります。	<b>【評価できる点】</b> ・施設及び設備の維持保全及び管理に係る業務を、目標に即して適切に遂行したことを評価します。また、利用者アンケートでの快適評価が目標4.0以上に対して4.5と上回っており、施設の状況を常に良好に保ち、安全かつ快適に利用することができるように取り組んだ成果の一つと評価します。  <b>【改善が必要と考えられる点】</b> ・横浜市民ギャラリーは既存の建物に内装等の改修工事を行い設置された施設であるため、今後も劣化状況を鑑みた適切な施設管理を継続する必要があると共に、修繕を要する案件が発生した際には関係各所との情報連携を行いながら迅速に対処し、施設設備の長寿命化に努めることを求めます。
		□設備の過失による運転停止事故ゼロ	0件	0件	B			
		■施設の状況を常に清潔に保ち、利用者が快適に利用できる管理の実施	実施	実施	-			
	2 施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施	□アンケートでの快適評価	4.0以上	4.5	A			
		□施設ハード面での過失による事故ゼロ	0件	0件	B			
		■設備管理業務日誌での日常点検の通年の記録と共有	実施	実施	-			
	3 保守点検、備品管理、環境維持の実施	■備品の適切かつ良好な状態での管理	実施	実施	-			
		■廃棄物の排出量を把握し、減量や分別・リサイクルへ努める	実施	実施	-			
		■空調管理の実施	実施	実施	-			
	4 収納庫の適切な管理の実施	■収納庫内及び収納庫周辺の定期的な清掃	実施	実施	-			
		■施設管理に対する全職員の意識の向上	実施	実施	-			
		■全職員及び横浜市との情報の共有	実施	実施	-			
2 小破修繕へ取り組みます。	効果的な小破修繕への取組	■全修繕履歴の年度毎のデータ化	実施	実施	-			
		■保守管理の専門技術を活かした、突発修繕への速やかな対処	実施	実施	-			
		■多角的視点からの小破修繕箇所早期発見	実施	実施	-			
3 事故防止体制・緊急時(防犯)の対応・感染症対策等衛生管理を行います。	(1)警備スタッフ及び機械警備による切れ目のない万全の警備体制の実施	■警備専門スタッフと機械警備による万全の警備体制の実施	実施	実施	-			
		■業務の基準に基づく警備の実施と利用者の入退出の適切な管理	実施	実施	-			
		□過失による事故件数	0件	0件	B			
	(2)関連法規の遵守	■業務を遂行する上での、定められた関連法規等の遵守	実施	実施	-			
		■警備計画書及び巡回警備計画書の作成とそれに基づく警備業務	実施	実施	-			
		■警備スタッフによる警備及び機械警備の業務日誌の作成と共有	実施	実施	-			
	(4)施設内外への防犯対策の実施	■警備スタッフによる施設の駐車場だけではなく周辺道路への防犯対策の実施	実施	実施	-			
		■救急セットやAEDの完備	実施	実施	-			
		□AED取扱い研修 実施回数	1回	1回	B			
	(5)救急セットやAED等の設置と十分な研修の実施	■毎日のAEDのセルフメンテナンスチェックの結果確認	実施	実施	-			
		■職員による施設内巡回による衛生管理の徹底	実施	実施	-			
		■インフルエンザ等の流行時の予防のための取組み 予防のための掲示の実施	実施	実施	-			
9 インフルエンザ等の感染症対策	■インフルエンザ等の流行時の予防のための取組み 消毒剤の設置	設置	設置	-				
	■鳥インフルエンザへの留意と異常時の迅速な対応	実施	実施	-				
	■汚物の処理にあたっての準備及び処理時の手袋・マスクの装着の徹底	実施	実施	-				

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価		
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
4 防災に関し取り組みます。	10 緊急時の連絡体制・役割分担	■緊急時の対応の明確化	実施	実施	-	・緊急時の対応を明確化しました。 ・緊急連絡網を作成し、横浜市へ提出しました。 ・防火管理者を配置し、関連法規に基づいた届出をしました。 ・危機管理マニュアルを作成し災害に備えました。 ・全員が普通救命講習受講しました。 ・自衛防災組織を設置し、継続的に防災訓練を行いました。 ・定期的に会議を持ち、消火栓や器具などの設置場所を実際に確認するなど有事に備えました。	<b>【成果】</b> ・年2回の消防訓練を通じて防災意識を高め、災害発生に備えました。今年度に発足した近隣の公共施設5館から成る5館長会メンバーとして、神奈川県立青少年センターの防災訓練に参加し、災害時の情報共有について、施設間でのより一層の協力体制を築きました。 <b>【課題】</b> ・展覧会開催中に大きな地震が起こった場合などを想定した訓練が今後は必要です。他施設の事例を収集しながら、実際に当施設で起こり得る被害を想定し、現実には訓練を検討します。	<b>【評価できる点】</b> ・消防訓練の実施や備蓄品の準備等、防災及び発災時に備えた取組を着実に実施したことを評価します。また、5館長会の一員として他館の防災訓練に参加し、近隣施設と災害時の情報共有に関する連携を強化したことを評価します。 <b>【改善が必要と考えられる点】</b> ・今後も状況別の想定をした、実際に即した訓練が行われることを期待します。また、発災時の事例等を館全体で共有して備えを進めるほか、他館との情報共有も継続することを望みます。
		■緊急連絡網の作成と市への提出	実施	実施	-			
	11 平常時の防災対策	■関連法規に基づいた届出等の実施	実施	実施	-			
		■危機管理マニュアルの作成	実施	実施	-			
		■全スタッフへの普通救命講習や訓練	実施	実施	-			
		□危機管理マニュアルに基づくスタッフの消防訓練 実施回数	2回	2回	B			
		■自衛防災組織の設置と継続的な防災訓練の実施	実施	実施	-			
	12 災害発生時の取組	■町内会と防災関連の協議の実施と、地域ぐるみの合同訓練等の提案	実施	実施	-			
		■関連法令、条例、業務の基準に基づく来館者の安全確保を最優先とした適切な対応	実施	実施	-			
		■情報管理の一元化及び適切な報告	実施	実施	-			
		■二次災害の発生防止措置の実施と、横浜市等との協議の上での適切な対応	実施	実施	-			
	13 帰宅困難者一時滞在施設としての準備等の災害時の取組	□全スタッフの対応の徹底を図るための消防訓練 実施回数	2回	2回	B			
■非常用簡易トイレ、飲料水、非常食、毛布等の備蓄		実施	実施	-				
■適切な情報収集による来館者や職員、施設の安全確保のための取組		実施	実施	-				
		■災害鎮静後の危機管理マニュアルに基づく適切な対応と現状復旧体制の確保のための取組	実施	実施	-			

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
Ⅳ収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 収支の適切な構造及び収支バランス	1	(収支予算書及び報告書) ■適切な収支構造、収支バランスの確保	実施	実施	・収入については展示室やアトリエの利用料金では目標をわずかに(約6万円)未達でしたが、駐車場の貸出を含む利用料金全体では目標額を達成しました。 ・助成金等の収入増も併せた収入合計は、200万円を超える増加となりました。 ・支出に関しては、特に光熱水費支出を予算額より削減することができ、その分を事業費や備品の拡充に充当するよう努めました。最終的に3,887,850円の黒字となりました。	<b>【成果】</b> ・きめこまやかな駐車場運営や日頃のお客様サービスの中での施設利用促進のほか、助成金の獲得など、積極的な外部資金の導入が収入増に結び付けました。支出については光熱水費を中心に、専門スタッフによる館内状況を注視しながらの効率的な機器運用により、経費を削減することができました。余剰分で事業や展示台などの設備を拡充し、魅力ある事業発信をするとともに施設の機能向上を行いました。 <b>【課題】</b> ・利用料金収入は変動要素が高い性質がありますが、引き続き丁寧なお客様サービスや施設利用の促進に努め、引き続き利用率の向上を図る必要があります。お客様とのコミュニケーションの中での空き施設のご案内等、個人や小グループへの販促など、こまやかな営業活動を行います。	<b>【評価できる点】</b> ・積極的な助成金の獲得や効率的な施設運用等により捻出された余剰分を、施設設備の更新や自主事業の充実に充てて活用し、効率的な予算執行が実行されたことを評価します。 <b>【改善が必要と考えられる点】</b> ・利用料金収入が目標を下回っており、改善の余地があります。今後も継続して効率的な資金計画を立てるとともに、収支のバランスに配慮した運営を行うことを期待します。

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
2 指定管理料のみに依存しない収入構造	2 利用率の向上による利用料金収入の増加への取組	□利用料金収入(駐車場を除く)	1150万円	11,434,430円	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助成金・協賛金は目標に対して約130万円、駐車場利用料金は約23万円上回り、目標以上の金額を達成しました。また、納入業者が変更になった自動販売機は、業者との需要予測の打ち合わせや欠品時間を減らすことにより、収入額は目標に対して5万円上回りました。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用料金が昨年度より約146万円上回りましたが、目標を達成することはできませんでした。今後は個人利用及び10人未満のグループへの貸出を促進するなど、空き施設を効率良く貸し出す等の取組により、さらなる利用料金の獲得を目指します。</li> <li>・ハマキッズ・アートクラブは急なキャンセルによる減収が課題です。当選通知にキャンセル時の連絡のお願いを盛り込むなど、引き続き当選者には丁寧な説明を行います。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場利用料金、助成金・協賛金、広告料、大人のためのアトリエ講座の受講料、自動販売機の収入額が目標を上回ったことを評価します。特に助成金・協賛金は目標を130万円以上上回ったことを高く評価します。</li> </ul> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用料金が目標を約6万円下回りました。引き続き積極的な営業活動等の利用料金収入確保のための取組を実行すると共に、展示室の利用方法変更を活かした幅広い層の利用者への働きかけ等により、利用料金の獲得に取り組むことを期待します。</li> <li>・ハマキッズ・アートクラブの受講料収入が目標を下回りました。子どもを対象とした事業であるためキャンセルが多い傾向にあるという側面もありますが、申込数が定員を上回ることが多くニーズが高い講座だといえます。現実的な事業運営との兼ね合いを考慮しつつ、キャンセル発生時の受講者の取り込みについて検討がなされることを期待します。</li> </ul>
	3 周知等による駐車場の利用料金収入の増加への取組	□駐車場利用料金収入	116万円	1,395,100円	A		
	4 助成金・協賛金(広告料収入)の獲得	□助成金・協賛金 □広告料	27万円	1,572,000円	A		
	5 周知等による講座料収入の増加への取組 周知等により事業参加者数の増加を目指す	□大人のアトリエ講座 講座料収入	122万	1,319,000円	B		
		□ハマキッズアートクラブ 講座料収入	43万	317,500円	C		
	6 自動販売機の販売収入の増加への取組	□自動販売機販売収入額	30万円	475,858円	A		
3 経費削減等効率的運営の努力	7 発注及び事務の効率化等による経費削減	■横浜市に準じた経理規定に基づいた、支出を最小限に抑える取組	実施	実施	-	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発注及び事務の効率化により超過勤務の抑制につながり、また壁のリタッチなどを自前で実施することで、適切な施設及び設備管理を実行するとともに、経費削減に努めることができました。</li> <li>・電力需給会社の入札により、支出を抑制した分、横浜トリエンナーレ関連事業の新規事業の実施や既存事業の拡充など、横浜市の推進する文化事業へ積極的に参加する事ができました。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天候等の外的要因に大きく左右されやすい光熱水費の執行管理が課題となります。移転時から継続して建物管理に取り組んできた専門スタッフの実績と経験を活かし、より密な室内環境のモニタリングに努め、効率的な光熱水量の使用を行います。</li> <li>・経費削減のため、当館では経験のない修繕や工事等の発注では、高品質で低価格の発注先を探すことが課題です。他施設類似工事の情報の収集など、共同事業体の専門性を活かしながら、規程による入札を実施し、効率の良い発注を行います。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に即し、経費削減のための効率的な運営に努め、業務を適切に遂行したことを評価します。また、横浜美術館及び横浜市民ギャラリーあざみ野との協力により、企画展時の経費削減につなげたことを評価します。</li> </ul> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務処理や施設運営の効率化に継続して努め、経費削減につなげることを期待します。また、修繕時には必要に応じて複数業者による確認を事前に実施する等、結果的に効率のよい発注となるよう引き続き取り組むことを期待します。</li> </ul>
		■事務用品の再利用化の推進	実施	実施	-		
		■広報物の発送の効率化による経費の削減	実施	実施	-		
		■計画的な経理処理による手数料の削減	実施	実施	-		
	8 適切な施設及び設備管理による経費削減	■施設・設備の効率的な運用による経費削減	実施	実施	-		
		■施設・設備の現状把握と修繕計画による支出の平準化と修繕費の抑制	実施	実施	-		
		■早期の修繕実施による長期における経費削減	実施	実施	-		
	9 職員の業務の効率化による経費削減	■職員の業務の効率化への意識を統一するための職員会議や面談	実施	実施	-		
		■業務の発注へのコスト意識及び職員の超過勤務削減による経費削減	実施	実施	-		
	10 展覧会や講座等の事業にかかる経費削減	■作家や講師との協働での事業企画による経費削減	実施	実施	-		
■企業からの現物協賛の受入れ等による経費削減		実施	実施	-			

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
その他	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
						【成果】 【課題】	【成果】 【課題】
評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標			説明	自己評価	行政評価
					<p>移転後は、移転前の利用者からアクセスの改善について多くのご意見をいただきました。継続して当館をご利用くださるよう、第3期指定管理期間当初より、丁寧な展示サポートや利便性のある送迎車サービスに努め、お客様本位の施設運営を行いました。</p> <p>指定管理期間の2年度目に当たる29年度は、管理運営や事業とも初年度の経験や蓄積を生かしながら「文化芸術活動拠点としての機能の強化」「市民文化活動や創造活動に対する支援の強化」「次世代を担う人材の育成の強化」といった3つの基本方針に沿って取り組みました。</p> <p>きめ細やかなサービスや幅広い企画が、前年度から7%増の98%となった高い展示室の利用率や、20,736人増加し266,904人となった年間入場者数に繋がり、顧客満足度や各事業参加者数等、業務全般において目標をほぼ達成できました。その結果、市民の“主体的な文化芸術活動の拠点”としての存在感が一層高まりました。</p> <p>現状では施設利用者の層が高齢化しております。お客様に安心して使っていただけるように、今後も施設のハード面の管理や運営面でのサポートに細心の配慮をするとともに、若年層の利用が期待される個展や小グループ展の利用促進に重点置きつつ、様々な層を対象とした事業を展開しながら、より多くの世代が集まる施設を目指します。</p>	<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>	<p>現施設への移転から3年半が経過し、事業及び管理等、施設運営全般にわたり、安定した運営を行うことができました。</p> <p>3つの自主企画展全てで入場者数が目標を上回ったことを高く評価します。これは企画展それぞれの趣旨に沿ったテーマ設定が行われたこと、関連企画の充実が図られたこと等の成果です。また、入館者数は目標を上回り、昨年度から16,000人以上増となりました。これは、積極的な貸室の営業活動等が一助となったものです。今後もさらなる市民サービスの向上を目指し、運営改善の視点を継続して持ち続けることを期待します。</p> <p>アトリエで開催した大人向け・子ども向けの各講座が目標通り着実に実施され、それぞれ参加者数・満足度共に目標を上回ったことを評価します。今後は、定着している講座の継続した実施と、新しい切り口の講座をバランスよく企画することにより、利用者の増加、一層の満足度向上に資することを期待します。</p> <p>地域や周辺施設との関係性を構築し、広報協力等を得ているほか、事業協力や防災面等、幅広く連携が図られていることを評価します。今後も良好な関係性の継続を期待します。</p> <p>施設管理は収蔵庫を含めた全館の適切な管理を実行し、着実な運用を行ったことを評価します。今後も円滑な運用を実施し、引き続き適切な施設管理を行ってください。</p> <p>現施設での定着が図られておりますので、今後も施設の特徴を活かした魅力ある事業の実施を継続すると共に、安定した施設運営を行ってください。計画的に事業を進めることで、平成32年度までの指定管理期間内に、本市事業との連携や他施設との連携講座の実施等の提案内容の実現が図られることを望みます。</p>